

Annual Report

2022▶23

特定非営利活動法人NPOぐんま 活動報告

2つの都市の総合計画策定を支援 富岡市・渋川市の第2次総合計画 後期基本計画

地域別計画・行革プランと一体化 富岡市

富岡市では、重点施策の見直し、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進等を踏まえた施策体系の見直しなどを行うとともに、“行政経営改革プラン”を総合計画の中に位置づけました。このプランは“総合計画”と“総合戦略”を一体的に推進するための“エンジン”と位置づけられています。さらに、市内全11地区が、地域づくりの将来像やその実現のためのビジョン、重点的な取組などを話し合い、とりまとめたものを“地域づくり計画”として総合計画に位置づけました。

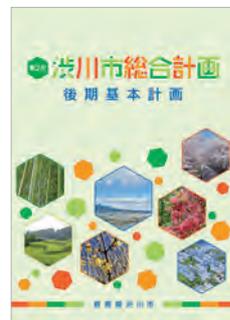
前期基本計画を深化 渋川市

渋川市では、基本的な考え方や構成などについて前期基本計画を継承しつつ、40の各分野別施策

とSDGsとの連動や重点施策の見直しなど、新たな視点を盛り込みました。このプロジェクトでは、計画書の原案を市当局がとりまとめ、NPOぐんまは、市民意識調査や中学生・高校生意識調査の実施、計画書原案に基づく冊子の編集・レイアウトなどを支援しました。



(左) 前期・中期基本計画から表紙イメージを一新した富岡市の計画
(右) 合併6市町村を六角形のアイコンで表現した渋川市の計画



沼田市人権尊重のまちづくり計画策定を支援 計画書概要版を全戸配布

沼田市では、初めての策定となる人権教育・啓発に関する基本計画と、近年、全国の自治体で策定が進められている再犯防止推進計画をあわせて「人権尊重のまちづくり計画」として策定しました。

この計画では、性的マイノリティ（性的少数者）や様々なハラスメント、新型コロナウイルス感染症をめぐる人権課題などの視点を重視しました。また、今後の効果的な進行管理のために、市民ア

ンケート調査結果に基づき、①人権課題への関心度、②関係機関・団体との連携による相談しやすさの向上、③人権尊重による住みやすさの向上の3つの評価指標を設定しました。計画書の概要版（A4判4ページ）は全戸配布されました。



人権尊重のまちづくり計画

特集

みょうぎプロジェクト2023進行中

妙義山の名勝指定100周年を迎えて



ビジターセンターとしてのリニューアル整備が進む妙義ふるさと美術館

ビジターセンターとしてリニューアル

妙義山名勝指定 100 周年となる 2023 年をひとつ目のゴールとする、地域住民発案のプロジェクト「みょうぎ 2023 アクションプラン」が進んでいます。NPO ぐんまは、主にソフト面の整備を、引き続き支援しました。

拠点施設となる“妙義ふるさと美術館”は、妙義地域の魅力を解説・展示するビジターセンターとしてリニューアルされ、建物の改修や広場の芝生化、Wi-Fi 整備などのハード面の整備と、妙義地域の魅力を紹介するパネルや立体模型の作成、妙義山の“峨々（がが）たる巖（いわお）”を疑似体験できる VR 動画の作成などのソフト面の整備が急ピッチで進みました。

妙義山のギザギザ・ゴツゴツのヒミツにせまる

館内のパネル展示では、メインコンテンツの 1 つとして、妙義山の特徴的なギザギザ・ゴツゴツのヒミツにせまる内容が設定されています。近年の研究成果や専門家のアドバイスに基づく展示内容の検討と作成を行いました。



現地での専門家のレクチャー（石門群にて）

ウェストンと妙義山案内人 根本清蔵について

“ウォルター・ウェストン”の名は日本の近代登山を語る上で欠かせない存在として知られており、長野県上高地では、その功績を讃える「ウェストン祭」が毎年行われ、親しまれています。しかし、ウェストンと妙義山の案内人“根本清蔵”（ねもとせいぞう）との関係を知る人は多くありません。根本清蔵とウェストンとの出会いや数々のエピソードなどについて独自に調査を行い、得られた成果を展示パネルにしました。



上高地にあるウェストンのレリーフ

2023 年夏のオープンを目指して

このプロジェクトはリニューアルオープンに向け、進行中です。



スポーツの力で地域を元気に

東吾妻町スポーツ推進計画策定のための町民アンケート調査を実施

東京オリンピック・パラリンピック成果の継承・活用や、休日の公立中学校の運動部活動の地域移行などが課題となっている地域スポーツ。さらに群馬県では 2029 年に国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催が予定されており、県内各地で様々な競技スポーツの実施が計画される中、「スポーツの町」を宣言する東吾妻町では、住民それぞれが暮らし方や意向に合わせてスポーツ・運動に親しみ、楽しむとともに、健康づくりや競技へのチャレンジがしやすいまちづくりを進めるための計画づくりに取り組んでいます。

2022 年度は、住民や各種関係団体等を対象とするアンケート調査を実施しました。2023 年度は、計画策定に向けて引き続き支援します。



東吾妻町役場

富岡市の地域づくり活動のあり方の提言書作成を支援

市民が主役・連携体制の強化・公民館の拠点化の3つを提言

富岡市は、2016 年の「元気な地域づくり推進市民委員会」からの提言書に基づき、公民館の市長部局への移管、地域づくり条例の制定、多様な市民が参加できるプラットフォーム“円卓会議”の設置・運営など、様々な地域づくりの環境整備を進めています。

2022 年度は、次のステップとして、この委員会を母体とする「地域づくり活動検証市民委員会」（委員長 小林清孝区長会長）が組織され、地域づくり活動の維持・強化の重要性、そのために必要な機能などについて協議し、改めて提言書として市長に提出されました。この提言書では、①市民が

主役の地域づくり、②これからを見据えた連携・体制の強化（自助・共助・公助の拡充）、③地域づくりの拠点化（公民館からコミュニティセンター（仮称）へ）の3つの具体的な提言がされました。



市長（右から3番目）に提言書を提出する市民委員会代表（左から2番目は委員として参加しているNPOぐんま熊倉代表理事）

エコアクション 21 事務局体制を強化

群馬・茨城の北関東2県の中核事務局3年目として



環境省制定の環境マネジメントシステム「エコアクション 21」発足以来、NPOぐんまは、地域事務局として、環境経営に取り組む事業者様や審査員の方々を支えてきました。

「エコアクション 21」は取り組みやすいとともに成果の評価がしやすいシステムとして年々評価が高まっています。

2020 年度の制度改定に伴い、地域判定も担う中

核事務局として、群馬・茨城両県で 350 事業者（NPO ぐんま 141 件、群馬県中小企業団体中央会所管 110 件、茨城県中小企業団体中央会所管 99 件）の審査・判定を進めてきました。

茨城県での担当は緊急的な対応でしたが、この度、担当を無事終了することとなりました。2023 年度からは私たちの郷土・群馬での事業者様の環境経営推進に力を集中していきます。

会費を活用いたしました

世界遺産サミットの開催を支援

2022年10月4日で開業から150周年を迎えた富岡製糸場。次の世代に引き継ぐ新たな一步を踏み出すための記念事業として、10月30日(日)に富岡製糸場西置繭所多目的ホールにおいて、「富岡製糸場と絹産業遺産群」に属する伊勢崎市、藤岡市、富岡市、下仁田町の4市町や、「白川郷・五箇山の合掌造り集落」の岐阜県白川村、「法隆寺地域の仏教建造物」の奈良県斑鳩町の首長や教育長などによる首長会議が開催されました。テーマは「文化遺産の持続可能なマネジメント～自治体における取組事例～」、NPOぐんま熊倉代表理事が会議の進行役を務めました。

また、前日には2つの分科会が開催され、そのうちの1つでは、「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の福岡県宗像市なども参加し、「文化遺産と地域コミュニティの参画」をテーマに、各都市の現状や課題などについて活発な意見交換が行われ、引き続き熊倉代表理事がコーディネーターを務めました。



(上) 世界遺産サミットの参加した首長等
(右端が熊倉代表理事)
(下) 分科会の様子 (左端が熊倉代表理事)

公民館のコミュニティセンター化について 藤岡市・富岡市の2市との意見交換会を開催

公民館を拠点とする地域づくりについて、2020年度に沼田市、渋川市、藤岡市、富岡市、安中市の5市の参加により発足した勉強会。今年度も富岡市、藤岡市の2市を中心に意見交換を行いました。この勉強会の成果等を踏まえて藤岡市は、2023年4月1日より市内に8つある公民館を「地域づくりセンター」に移行しました。同様に富岡市も、社会教育法に基づく公民館を、地域づくりの拠点としたコミュニティセンター化を検討しており、NPOぐんまはこの取組を今後も支援していきます。



意見交換会の様子

会員を募集しています

会員の皆様からご協力いただく「会費」は、NPOぐんまが公益活動を推進するためのたいへん重要な財源です。

設立趣旨や活動内容に賛同いただき、会員としての活動を支援して下さる方を随時募集しています。

ご入会ご希望の方や興味のある方は、事務局までお気軽にご連絡ください。

会員種別	入会金	年会費 (1口)
正会員 (主に個人)	なし	10,000円
賛助会員 (主に企業・団体)	20,000円	100,000円